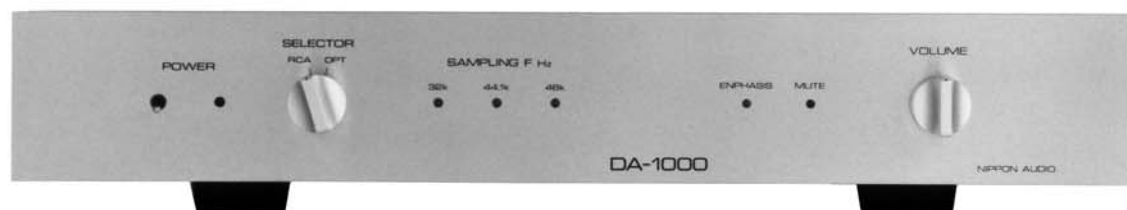


開発 6 年の成果

DA-1000

DAコンバータ**DA-1000**が完成しました。
デジタル再生で原音を追求すると、音は優しく、そ
して、ひたすら静かになることが分かってきました。



¥ 280,000 (税別)

DA-1000の特長

デジタル初期の頃、プレーヤによって音は変わらないとも言われましたが、人間の耳の鋭さはCDプレーヤの音の差を明確に判定しました。オーディオ界は直ちに「音の良い」CDプレーヤに全力を挙げ、当社もまた必要に迫られて開発に着手しました。

「原音再生」を標榜して6年を費やした結果、ようやく発売に踏み切るだけの自信作が完成しました。

DA-1000の特長は、「電流/電圧変換モジュール」(I/Vコンバータ)の新規開発と、7箇所に取り付けた「電源スタビライザ」ですが、その結果は「完全なる原音再生」に向かって大きなステップを踏み越えたものと自負しています。

「使い易さ」も重視したポイントで、パワーアンプ直結を考慮してボリュームが用意してあります。音量調整は「デジタル式下位ビット切り捨て方式」を避け、特製の5回転ボリュームによって音の鮮度の保持に万全を期しています。

DA-1000の音

1. 「デジタル臭い音」からの解放

従来のCDプレーヤーには、ともすると「メタリックな」とも表現できる、「きつい音」のものがあり、「デジタル臭い音」という評判がありました。これは、実は同一シャーシ内にアナログ信号とデジタル信号が混在していることに大きな原因があるのですが、その対処法の追求によって、まずは完全にアナログ信号の純度を確保しました。7箇所を使用している「電源スタビライザ」の効果です。

2. 「高分解能」と「高鮮度」

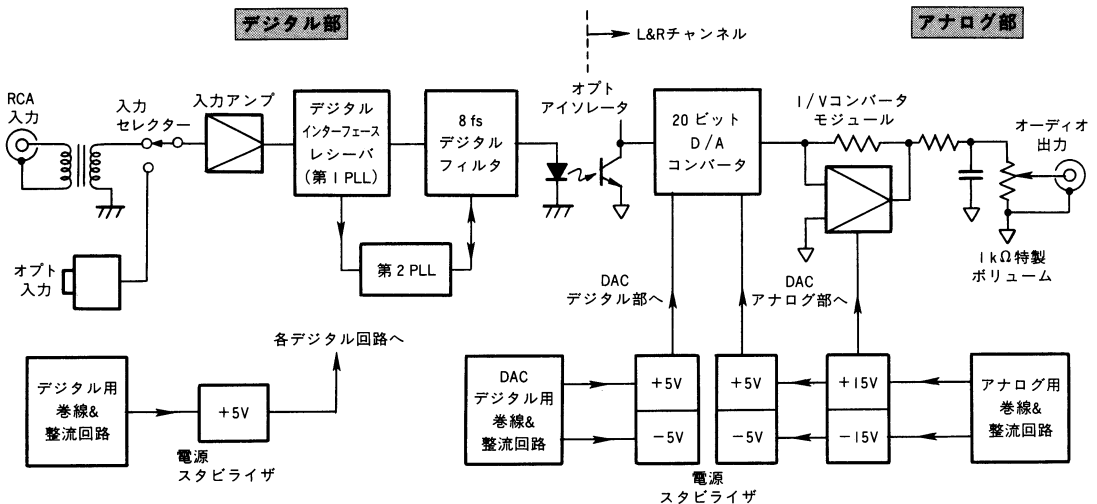
「I/Vコンバータ」の完成度が、高分解能と高鮮度の秘密です。この部分の追求が進むにつれて、まず感ずる音の特長は「音の優しさ」です。フルートの空気の擦過音の肌ざわり、松脂を塗られた弦の張り、どれも生の音を至近距離に聴くときの印象です。それが出るようになります。

3. 「空間の拡がり感」と「静けさ」の表現

実は、この表現力は同じものなのです。静けさの現れは、余韻、残響などの極微の音が、空間の果てに退き切るまでの立居振る舞いを、どこまで鮮やかに保てるかですが、この表現が可能になると、静けさの本性と、具体的には録音現場の空間の拡がりが見えてきます。視力2.0の感性を耳に与えたら斯くもあらんか、という感じです。

仕 様

■ 方式	8倍オーバーサンプリング / 20ビット DA コンバータ
■ 対応サンプリング周波数	32kHz (DAT、BS) / 44.1kHz (CD、DAT) / 48kHz (DAT、BS)
■ 入力	RCA (同軸ケーブル) オプティカル (光ケーブル)
■ 周波数特性	5 Hz - 20kHz 間 ±0.5dB
■ 出力調整	5 回転特製ボリューム
■ 電源	100V / 50~60Hz / 25W
■ 寸法	420W × 330D × 78H



(DA-1000ブロック図)

(株)日本オーディオ

〒164 東京都中野区中央 5-4-24 第5小河原ビル501号 TEL 03-5340-3020 FAX 03-5340-3023